

ステークホルダーのご意見 環境に大きな影響を与える電力事業なので生物多様性への配慮は欠かせないと思う。(学生)

(2) 社有林の適正な管理

当社は、水力発電の安定した水源確保を目的として、阿蘇・くじゅう国立公園区域内を中心に4,447ha（ヘクタール）の社有林を適切に維持管理し、水源涵養やCO₂の吸収など、森林の持つ公益的機能の維持・向上に努めています。

また、2005年3月には、適正な森林管理が行われていることを認証するFSC（森林管理協議会）の「森林管理認証」を、国内の電力会社で初めて取得しています。

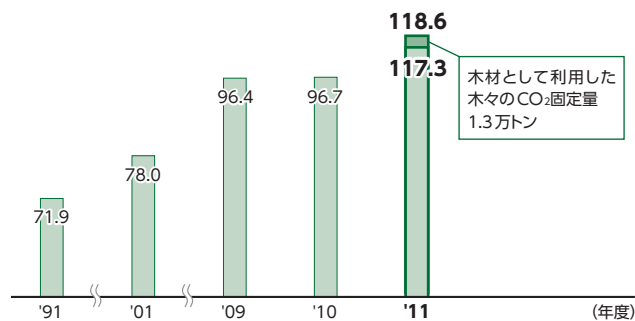


社有林(山下池周辺(大分県由布市))

● 社有林によるCO₂吸収

社有林により吸収固定されるCO₂は、木材として利用するために伐採された木々が固定しているCO₂量1.3万トンを差し引いても、社有林全体で117.3万トンと算定しています。

社有林によるCO₂吸収固定量 単位：万トン-CO₂



(注1) 森林調査に基づく実測値から日本国温室効果ガスインベントリ算定方法に基づき算定。
 (注2) '01年度までのCO₂吸収固定量には樹齢15年以下の若木分は含まない。
 (注3) '11年度は社有林の材積の調査方法を変更したことにより、'10年度と比べてCO₂吸収固定量が大きく増加している。

(3) 絶滅が危惧される稀少植物の保護及び特定外来種の防除に関する研究

地球上の生物は、判っているだけで約140万種、未知の種を合わせると300万から3,000万種にも及ぶと推測されています。そのうち毎年4万種が絶滅しているとも言われており、絶滅の脅威にさらされた野生生物の種の保存は、地球レベルで緊急に取り組むべき重要な課題となっています。このため、九州で絶滅が危惧される身近な植物について、保護を目的とした研究を行っています。

その他の環境負荷低減に資する研究・開発は九州電力ホームページ 関連・詳細情報 (P2参照) [環境負荷低減に資する研究・開発](#)

● 「女子畑いこいの森」におけるタコノアシの保全

タコノアシは、湿地や沼など湿った場所に生育する植物で、環境省版レッドリストにも掲載されている準絶滅危惧種です。当社女子畑発電所ダム周辺にある「女子畑いこいの森」(大分県日田市)にも自生していますが、近年イノシシなどの被害により生息数が減少しています。このため、保護柵の設置など、生息地を保護しながら、増殖に向けた研究を行っています。保護柵外へも「タコノアシ」は自生拡大しており、2011年には保護柵外に120本の自生が確認できました。



タコノアシ



タコノアシ保護の様子

● 社有林におけるカンランの植栽

九州の身近な植物で絶滅が危惧される「カンラン」を社有林に植栽して栽培試験を行っています。2010年及び2011年の12月に2年連続で開花を確認することができました。



自然林(社有林)の中で開花したカンラン

● アレチウリの防除方法検討

樹木への日射を遮り、枯らしてしまう特定外来種のアレチウリの防除方法を検討しています。



アレチウリの侵入

用語集を
ご覧ください

- ステークホルダー
- 森林(管理)認証
- 環境省版レッドリスト
- 社有林
- 吸収固定
- 準絶滅危惧種
- 水源涵養
- 温室効果ガスインベントリ
- FSC(森林管理協会)
- 特定外来種

: 第三者機関による審査を受審したデータ